



# 町政の課題

11 議員26問を質す



高齢者福祉の未来をデザイン化

●松本 今まで、高齢者の福祉や安否確認の



松本秀治議員

質問をしてきたが、我が町の少子高齢化はますます進むでおり、危機感すら感じる。他の自治体でも大きな問題で、色々な政策を講じているが、先を見据えた政策とは言い難い。

**A** **Q**  
**未来のデザイン化を行っている**  
**少子高齢化、現状をどうする**

町として現状をどうとらえよう対策しようとするのか。

■町長 人口が県内23市町では3市町以外は減少の傾向。本町は、この内5番目に高い減少率である。高齢化率は36%、17年比較で1.1ポイント上昇している。こうした状況をふまえて「全町農村公園化構

想」を全町民あげて未来のデザイン化を行っているところである。ひとつに、若者の農業就労支援であり、また、子育て支援として保育料の半額化などがある。

人口減少を本町だけプラスに転じることは不可能だが、豊かで住みやすい町を創る積極的な政策を作り、転入者の増加をめざす。



豊田 勲議員

●豊田 家が古くなったり使いにくく便利が悪い。座が落ちそうだし洋式トイレに替えたいなど、工事費の10%程度を町が補助すれば工事に取り付きやすい。

**A** **Q**  
**周辺市町村を調べてから**  
**住宅リフォーム制度の創設を**

■町長 新たな補助制度を創設することは十分な検討が必要だ。この制度を創設している近隣の市町の補助内容や申請状況を調べて検討する。

■町長 工事は町内の大工・左官などにお願すれば景気も良くなり雇用も生まれ活性化する。



元ハローワーク事務所は

**Q** 町民アンケート  
トにどう対応  
町民の声を聞き  
施策を推進

**●豊田** 共産党世羅支部は、選挙を前に町民アンケートを実施した。生活が前より悪くなった55%。この先年金や医療・介護が心配だ。介護保険料が高く支払いに困る55%などであるが。

寄りの今後の心配は全国的に共通している。介護保険料改善は町村会を通して国に要望している。

**Q** 土地購入予算  
は付いたが  
元ハローワー  
クは交渉中

**●豊田** 元法務局跡地、ハローワークの土地と建物、共済組合・福祉会館の土地は予算が付

いているが。

**■町長** 法務局跡地は用地を取得し防災拠点施設として設計に着手した。ハローワークは

**Q** 次期町長選に出馬の施策は  
歴史に耐え責任の持てる町づくり

**●福田義** 合併前の過大な起債償還を抱えた町は財政再建団体に転落する危機にあったが、

用地交渉中。世羅小学校西の土地はスクールバス乗降場に計画。物件移転があり交渉中である。

全・環境など6つ分野ごとに目指す目標を設定し、未来を見据え大胆な施策を展開する。

重点施策を問う。

**Q** 地域医療の今後の課題と方向は  
安心な暮らし確保  
は医療の充実から

**■町長** 次期の重点施策は行政改革、保健・医療・福祉、安心・安

**●福田義** 病院は大きくなったが医師数は同じ、労働強化が強いられている。住民と一緒に医療を確保し安心して暮らすには。



福田義人議員

**■町長** 久井病院と再編した。地域医療を守る役割は大きくなった

**Q** 鳥獣被害防止  
の今後は  
農作物被害軽減  
に努める

また、スタッフが世羅に根付くための環境の整備が重要。医師に働きやすく魅力ある環境づくりを住民と一緒に進めたい。



住民の皆さんと一緒に医療を考えよう

**●福田義** これまでイノシシの質問を繰り返した。柵の設置は一定の効果はあるが、頭数制限を積極的にすすべきだ。

**■町長** 農作物の被害面積は年々増加している。現在は①銃罫による捕獲②新規狩猟免許者へ補助、防止柵へ補助③集落ぐるみ防止へ補助④専門家によるリーダー講習会を実施し、鳥獣被害の軽減に努める。



八田原指定管理の今後は

今後先例自治体などを参考にして、健全な

である。

■町長 質の向上、コスト削減を相互に確認し施設運営のノウハウを保全していく必要があると考えている。モニタリング制度も重要

である。



永田英則議員

**Q** 指定管理制度の状況は

**A** モニタリング制度を検討する

指定管理者制度の運用に努めていく。

■教育長 学校のいじめの認知件数は22年中学校1件。23年小学校2件。いじめられた子どもも立場に立った、親身な指導を細かく行い早期の解決を図るよう指導している。

虐待は、いじめ問題同様に子どもの生命に深刻な影響を及ぼすものであり、学校、教育

委員会、関係機関と連携を図り早期発見と対応に努める。不登校の実態は、22年小学校4名。23年小学校7名、

中学校15名。24年中学校7名で、心の通う生徒指導を進め、相談活動を充実させて未然防止に努める。

人事評価第3弾を係長へ適用を拡大

■町長 管理職は人材育成と併せて職員の配置、給与、処遇へも反映し本格運用をしていく。現在係長へ対象を拡大すべく制度説明を終え、今後実践研修に入る。

■町長 25年4月から施行。グループホームが進められ支援する。新システムは27年以降に実施され、計画書を

策定する。認定こども園は139名。27名体制で適正に運営している。

■町長 国の交付金で柵の整備を進める。捕獲頭数は増加している。今年度の米価は若干高い。引き続き町のブランド化を図るため、アスパラ、キャベツの作付を進める。

■町長 就農支援を進めるとともに災害分担金等の軽減を検討している。

■町長 国保の広域化と国保税は標準化を

■町長 国保の広域化と国保税は標準化を

■町長 国保の広域化と国保税は標準化を

■町長 国保の広域化と国保税は標準化を



矢山 武議員

■町長 25年4月から施行。グループホームが進められ支援する。新システムは27年以降に実施され、計画書を

策定する。認定こども園は139名。27名体制で適正に運営している。

■町長 国の交付金で柵の整備を進める。捕獲頭数は増加している。今年度の米価は若干高い。引き続き町のブランド化を図るため、アスパラ、キャベツの作付を進める。

■町長 就農支援を進めるとともに災害分担金等の軽減を検討している。

■町長 国保の広域化と国保税は標準化を



イノシシ個体捕獲を望む



充実した介護サービスと保険料は

**Q** 介護・福祉行政は公平適法執行か

**A** 適切な介護サービス提供



安佐長秀議員

●安佐 町内の事業所で、違法行為はないか。特定の事業所で、労働災害が認定と聞くが、町は対応しているのか。労働災害などの起

因で裁判提訴と聞いたが、町長は周知をしているのか。

■町長 飲酒運転は県と指導している。引き続き県と連携し指導をする。労災は把握していない。労働基準法の指導は担当部署で指導されるものである。裁判は何ら関わらな

**Q** 介護保険料引き上げの所得者への影響は

**A** 認定者数、給付増、負担増加

■町長 職員の問題は全責任がある。町民から信頼される職員の育成に取り組む。問題があれば、直接幹部で即対応する。

**Q** 全職員、嘱託職員の指導監督責任は

**A** 信頼される職員の育成に取組む

●安佐 町民から管理職、一部の職員の対応に非常に不自信と怒りの声が多い。また、時期を短くして23年度の不適正な事務処理の反省が全く生かされていないが。



福田 豪議員

●福田豪 地球温暖化をはじめ環境対策は政

**Q** 『世羅台地の自然』再刊と活用を

**A** 再刊は考えていない

■町長 介護給付費で過誤調整等がある場合適法な措置をしている。体調に適した健康作りができる体制整備で、健康寿命を延ばすことで、介護給付費抑制に努める。

●安佐 県内5番目に高い保険料であるが、施設介護サービス費は十分適法に利用されているか。

今後、保険料引き上げ抑制施策をどう取り組むのか。

治課題のひとつとされている。『世羅台地の自然』は環境問題を考えるきっかけになる。再刊の考えはないか。

また、標本などの資料の活用をすべきではないか。



世羅台地の自然 再刊を望む

■教育長 再刊には多額の費用が見込まれる。また、発刊から10年が経過しており、再調査や改訂が必要と考える。意義は承知するが、現在その考えはない。

また、図書や資料は、大田庄歴史館の企画展示や一部は貸出セットとして活用している。

Q

防災・減災対策の加速を

橋梁補修調査・設計を委託



西田美喜男議員

に、防災・減災対策の推進により一層取り組んでいかなければならない。

本町の橋梁長寿命修繕計画を再度、具体的に説明を。

■町長 今年度11橋梁について、補修調査及び補修設計を委託し実施した。

予算化は、今年度の橋梁補修設計で算出された設計工費を財政との整合性を図り必要な予算を確保して、次年度以降に修繕を行っていく。

●西田 未曾有の東日本大震災から一年半が経ったいま、被災地の復旧・復興に全力で取り組みむと同時に、今日本では、南海トラフ、西日本エリアなど大地震の発生が高い確率で予想されている。東日本大震災を教訓



コピー機で住民票がとれる

未点検の107橋のうち50橋を目標に点検を実施していく。

Q

コンビニで証明書等の交付を

他市町の動向を注視し検討

●西田 「コンビニ交付サービス」は、自治体が発行する住民基本台帳カードを利用すれば、セブンイレブンのマルチコピー機から、住民票の写しや、各種税証明書などを入手することができる。

自治体の窓口が開いていない日でも、6時30分から23時の間、証明書を取得することができる。自治体にとっては窓口業務負担の軽減などコスト削減の効果が上がる。本町に取り入れる考えは。

■町長 近い将来にはコンビニでの証明書の発行をする時代が来ると考える。社会情勢や他市町の動向を注視しながら検討する。

鳥獣被害対策は 集落主体の対策に支援



仙光保喜議員

組んでいる。農業をより困難な状況にし、地域の景観を損ね、道路や河川の管理を阻害したり日常的に大変な被害を受けている。

広域的で強力な対策を講じて個体数の減少に力を入れるべきと考える。

●仙光 一部の市街地を除き町内全域に鳥獣被害、特にイノシシ被害が多く土木被害も発生して被害対策に取り

■町長 鳥獣の農地への進入防止対策をしていない農地は減少しており、集落ぐるみの大規模進入防止柵の効果も現れてきた。

現在、鳥獣被害対策実施隊は、隊員33名で活動。現場に合った捕獲方法を検討し、捕獲に勤めている。

鳥獣被害対策は駆除だけでなく、農地への進入防止対策や集落内の餌場をなくすなどの環境管理も合わせ展開する必要がある。

集落内の一人ひとりが学習し、集落主体の対策に行政が支援していく仕組みづくりを目指す。

■町長 6月以降も施設の適正管理に向け、指定管理者へ指示を行っているが、改善策が進まない状況が続いている。

せらにし旅行村の状況は

今年度中一定の整理をする

●仙光 指定管理者に、運営について前向きな改善策を期待しているが、その後の経過につ

町としては、今後のせらにし旅行村の管理状況改善に向けて、今年度中には一定の整理を図る考えである。

「施設の設定目的を効果的に達成する」という指定管理制度本来の姿と比して、現在の運用状況がどうか検証を行う考えである。



指定管理どうなる せらにし旅行村

Q

なぜ介護保険料を値上げしたか

A

介護認定者数の伸びが大きい



岡田武士議員

●岡田 ①介護保険の財源は。②改定の主たる理由は。③主な使用道は。

■町長 ①サービス利用時の利用者負担を除く50%が公費で賄われ、居宅サービスでは国が25%、県と町が12・5%それぞれ負担している。65歳以上が21



野積み堆肥の現状 (青水)

■町長 ①条例の対応は23年4月1日施行のためリバーには適用することができない。

●岡田 ①町として生活環境保全条例に対する対応は。②5か所の野積み堆肥の現状は。今後の対応と対策は。

野積み堆肥の  
その後の経過は  
小世良以外は  
全く撤去されず

②認定者数の伸びに伴う給付費の増加、これに対応する取崩し可能な基金の不足。  
③使途は施設サービス45%、居宅サービス36%、その他19%となっている。

法律に基づき県が撤去の措置命令の行政処分を行っている。  
②小世良は地権者により撤去が行われ、残り450t余りになっている。

引き続き県に対し働きかけを行う。

無形民俗文化財の指定後の対応は  
映像記録の保存

●岡田 ①伝統ある祭



小川信晃議員

●小川 この地域の臭気公害を叫んできたが未達成に終わり、ここ

臭気公害をなげく  
早急解決に努力する

りの維持が難しくなっている。対策は。  
②町として援助ができるか。  
■町長 ①映像記録の保存に力を入れる。  
②町の要綱により道具の修理や指定文化財の保持保存の事業に50万円を限度に半額補助できるが、祭りの運営費用への支援はできない。修理費が高額な場合は国や民間の助成金の申請も含めた対応も可能である。

にきて温かい思いやりが事業者にない事がわかった。  
行政はどんな手を打って打開するのか。臭気指数も15オーバーしている。焼却炉にしても焼却温度が常温になっっていない。いずれも

小手先の事業で終わっている。  
早急に打開策を打つべきである。

■町長 公害

防止条例により改善の方向で指導し、地域住民の匂いに対する考えも変わったと理解するが、今後も臭気公害を早急に解決するよう鋭意努力する。

格差の目立つ競争社会をどう切り抜ける  
誠意努力する

●小川 これからの地方分権化のなかで、今までの補助金、交付金などで地方財政を行う時代は、住民自ら選択と創意工夫と経営意識がなくてはやっていけない。



臭気公害の現状をなげく

特に人件費問題、定数管理、給与問題やコスト意識の充実、事業の効率化など良く検討し、身軽な行政となることを問う。

■町長 指摘のように選択と創意工夫、経営意識は行財政の執行の上で重要なキーワードと考える。しっかりと現状を見つめ改善する制度を高め、行動と選択に責任を持って進めていく。